第五次伊東市総合計画策定方針（抜粋版）

１　策定方針

⑴　基本姿勢

社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズに的確に対応し、中長期的な視点に立った実効的な計画とするため、本計画は、次に掲げる視点をもって策定することとする。

ア　時代の変化に柔軟に対応できる計画づくり

めまぐるしく変化する社会経済情勢を踏まえる中で、多様化・複雑化する市民ニーズ等を的確に捉え、市政に反映するとともに、国際社会全体の開発目標であるＳＤＧｓ等を始めとした新たな視点での取組を推進するよう、時代の変化に柔軟に対応できる計画づくりを進める。

イ　市民との協働による計画づくり

今後のまちづくりの課題や方向性を共有し、ボトムアップによるまちづくりを進めるため、市民アンケートの実施や、市民の声を伺う場として本市の将来を担う市民で構成された未来ビジョン会議において、本市の将来像に対する意見を求めるなど、計画の策定に当たり、広く市民の意見を集約し、市民の視点に立った計画づくりを進める。

ウ　地方創生と連動した計画づくり

本市では、少子高齢化の進展、若者・子育て世代の流出の拡大により、人口減少への対応が喫緊の課題となっている。平成２７年度に策定した伊東市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市への新たな人の流れを生み出し、人口減少に歯止めをかけるため、魅力あるまちづくりに向けた独自の取組をまとめたものである。総合戦略は、総合計画に示した取り組みの一つである人口減少対策に重点をおき、具体的な方策を示したものであることから、本市では総合戦略を、総合計画を実現するための個別計画の一つとして位置づける中で、連動した計画づくりを進める。

エ　国県をはじめ他の個別計画と整合性等のある計画づくり

国、県等において策定されている諸計画と整合性を図るとともに、伊東市都市計画マスタープランを始めとした、本市で策定している各種個別計画の上位計画として計画づくりを進める。

オ　目標を明確化し、成果のマネジメントを行える計画づくり

行政活動の結果を表すアウトプット指標のみならず、行政活動の成果を表し、市民が受ける効果を示す指標であるアウトカム指標の設定を行うとともに、評価結果を次の施策や予算配分等に反映する目的指向型行政運営（行政評価システム）によるマネジメントを行う計画づくりを進める。

カ　分かりやすい計画づくり

市民と行政が、現況や課題、方向性を共有するとともに、まちづくりを進めていくための共通目標となるよう、本市の将来を担う高校生等が理解できる表現や内容に努める。